

## 経営学特別学修プログラム (excellence program) の概要 (平成 30 年度入学生)

### 1 プログラムの目的と特徴

この教育プログラムは、「豊かな教養、経営・経済・社会の全般にわたる基本的知識、経営に関する専門的知識、国際社会に通用する思考力、判断力及びコミュニケーション能力を備えた人材」の育成を体系的に行うことを目的に平成 28 年度に開設されました。せっかく伝統と実績を誇る神戸大学経営学部に入學したのだから経営学を真剣に勉強してみたいという意欲のあふれる学生であれば、誰でも参加できます (ただし、希望者が定員 (30 名) を超えた場合には、選抜を行います。)

この教育プログラムでは、1 年次第 3 クォーターから 2 年次末までの 1 年半の間に、少人数教育によって、3 年次以降の本格的な専門教育をより深く理解し、そして社会に出からは経営学部で学んだことを実際に活用する基盤となる知力を鍛えます。ビジネスリーダーとしてグローバルに活躍するためには、ビジネスの現場で次から次へと新たに起こるまだ答えの決まっていないさまざまな問題について、(誰も正解を知らないの) 自分の頭で、何が問題なのかを発見し、その問題を説明する仮説を組み立て、その仮説の正しさを論理や事実によって確認し、その仮説が正しければそれに基づいてどのように解決すべきかを考え、考えたことを説明して説得する知力が必要です。グローバルなビジネスの現場では、経験と勘とか、あうんの呼吸といったフワッとした感覚では、何も解決できず、話も進まないからです。まして出たとこ勝負の思いつきを声高に振りかざしても、誰も相手にしてくれません。

現実には起こっているさまざまな問題を理解し解決し説明する知力を身につけるとは、経営学を中心にそれ以外の経済学、心理学、社会学、数学、統計学などのさまざまな分野の知識を学び、さらに学んだ知識を実際に活用できるようになることを意味します。この教育プログラムは、大教室で教員の話を一方向的に聞いて、聞いたことをただ覚えるのではなく、双方向の少人数教育を通じて、経営に関して実際に起こっているいろいろな問題を本当に理解して解決するのに必要な基本的考え方や多様な分析方法を、実際に身体を動かし知的格闘を繰り返すことで体得することを重視します。この教育プログラムを修了すると、学生は経営学を、単なる知識としてではなく、自分の頭で現実を理解できる学問として体得し、使いこなせるようになるでしょう。

この教育プログラムで開講されるすべての科目を履修し単位を取得した学生には、学部長名で修了証書を発行するとともに、成績証明書にもこの教育プログラム履修者であることを記載します。これらの修了証書や成績証明書の記載は、その学生が経営学で重要な基本的な考え方や分析方法を習得していることを、経営学部が公式に証明するものです。ですから、この教育プログラムを履修していることは、たとえば 3 年次以降の研究指導 (ゼミ) のゼミ生選考にあたっての重要な考慮事項になりえます。また、この教育プログラムを修了したことを、履歴書に記載し、就職活動で活用してもらって差し支えありません。

## 2 教育プログラムの構成

### (1) 履修の流れ

この教育プログラムは、1年次後期（第3クォーター）から開始し、2年次後期（第4クォーター）に終了する1年6か月間のプログラムです。ただし、参加学生の選抜は、1年次前期（第1クォーター）に開講される「初年次セミナー」から始まります。

経営学特別学修プログラムの履修の流れ

学年	クォーター	開講科目	単位数	
1年次	Q1	初年次セミナー	(1)	選抜段階
	Q2	経営学入門演習	(1)	
	Q3	経営の理論と実践 1	2	経営学特別学修プログラム
	Q4	経営の理論分析 1	2	
2年次	Q1	経営の理論分析 2	2	
	Q2	経営の理論と実践 2	2	
	Q3	経営の理論と実践 3	2	
	Q4	経営の理論分析 3	2	

(注) ( ) 内の単位数は、経営学特別学修プログラムの単位としては計算しない。

履修要件上、経営学特別学修プログラムの単位は、専門科目のうちの「第3群科目」の科目となります。なお、2年次第1クォーターの「経営の理論分析2」と第2クォーターの「経営の理論と実践2」の履修単位は、経営学部必修科目の「外国書講読」の履修単位に読み替えることができます。

### (2) 各科目のねらいと内容

#### ①「初年次セミナー」（1年次第1クォーター）の最初2回

全体講義の最初の2回で、経営学の基本的な考え方や研究方法に関する講義を行い、経営学を深く学ぶ必要性を理解してもらいます。2回目にレポートを課します。第2クォーターに開講される「経営学入門演習」の履修希望者が定員（80名）を超える場合には、こ

のレポートに基づいて履修者を選抜します。

#### ②「経営学入門演習」(1年次第2クォーター)

「学問によって現実を理解する」とはどういうことかを、演習形式すなわち少人数の双方向の授業で実例を使って実際に頭と身体を動かして理解してもらいます。ここでの「理解」には、実証的理解と理論的理解の2つがあります。実証的理解の場合、仮説を立て、データを集め、仮説を検証します。理論的理解の場合には、理論手法を使って論証します。

#### ③「経営の理論と実践 (Theory and Practice of Management)」(1年次第3クォーター以降)

1年次に開講される「経営学基礎論」、「会計学基礎論」、「市場システム基礎論」で学ぶ経営学の基本的内容を、学問として(繰り返しますが、世の中で起こっているさまざまな出来事を理解して説明できるように)身につけてもらいます。「経営の理論と実践(1~3)」の全体で、経営学・会計学・商学(市場システム)の3つ分野の基本内容を取り上げ、経営学が社会学、心理学、経済学等の多様な学問分野を用いて経営現象をどのように明らかにするのかを、身をもって経験し、現実と理論とを対応づけて体得します。

#### ④「経営の理論分析(A analytical Models for Management)」(1年次第4クォーター以降)

経営学(特に、経営学における経済学アプローチの内容)を理解する上で必要となる論理的思考能力に、モデルで考える力とデータで現実を理解する力があります。この科目は、この2つの能力を育成する為の少人数演習授業で、次の2段階で構成されます。

[第1段階]「経営の理論分析1」で、数学モデルを操作するために必要な数学の学力を身につけます。

[第2段階]「経営の理論分析2」で、企業理論、消費者理論、市場理論等の基本内容を取り上げ、数学モデルによって理解し、自らモデルを操作して理論的考察を行う能力を育成します。「経営の理論分析3」では、データによって社会現象を理解する能力を育成します。

### (3) 関係科目

経営学特別学修プログラム科目を理解するには、関係する準備科目の履修が必要です。「経営の理論分析」では、数学と統計学を使います。数学の学習には、必ず微分積分と線形代数を学んでください。微分積分は、1年次の前期(第1・2クォーター)に開講される全学共通授業科目の微分積分入門1・2、第3クォーターで開講される経営学部専門科目「経営数学」を順に履修してください。この順に学習することで、高校で数IIIを履修していない文系受験生でも、必ず、第4クォーターの「経営の理論分析1」に必要な数学的方法を理解することができます<sup>2</sup>。線形代数は、1年次の後期(第3・4クォーター)に開講される

<sup>1</sup> 経営学特別学修プログラムに応募し、選抜の結果履修が認められた人は、「経営数学」は、経営学部によって自動的に1年次第3クォーターに履修登録されます。

<sup>2</sup> 高校で数IIIを履修していて、数学的方法をより深く学びたい人は、微分積分入門1・2の代わりに、1年次通年(第1~4クォーター)で詳しく学ぶ微分積分1・2・3・4を履修することができます。ただし、微分積分1・2の範囲が微分積分入門1に、微分積分3・4の範囲が微分積分入門2にそれぞれほぼ対応するので、微分積分1・2を履修する人は、必ず微分積分3・4まで履修するようにしてください。線形代数も同様です。

全学共通授業科目の線形代数入門 1・2 を履修してください。他方、統計学の学習には、2 年次第 1 クォーターで、経営学部専門科目「経営統計」を履修してください。

また、「経営の理論と実践」の学習の準備として、1・2 年次に開講される全学共通授業科目（基礎教養科目、総合教養科目）の「論理学」「社会学」「心理学」および「社会思想史」の履修も強く勧めます。

#### (4) 到達目標

この教育プログラムの目標は、あくまで 2 年生が 3 年次以降に経営学を学習するための基盤となる知力をきっちりと身につけてもらうことであって、最先端の知識を伝授することではありません。言い換えれば、以下の観点から、市場と組織にかかわる社会現象を洞察する基礎能力を養うことを到達目標とします。

- 組織の仕組みと活動
- 組織に属する人間の行動
- 組織における知識と技術の形成、蓄積と利用
- 組織内外での資金と情報のやり取り

### 3 参加方法と選抜方法

この教育プログラムを履修できるのは、学習意欲にあふれる経営学部学生です。ただし、少人数教育を特徴とするため、30 名の定員を設けています。もし希望者が定員を超える場合には、選抜を行います。

選抜は、1 年次第 2 クォーターに開講される「経営学入門演習」2 クラス（正司および末廣担当）（各定員 40 名）のどちらかを履修した学生の中から、意欲と成績に基づいて行います。ですから、このプログラムへの参加を希望する学生は、まず 1 年次第 2 クォーターで「経営学入門演習」を必ず履修してください。その履修申請は、4 月 17 日（火）9 時から 20 日（金）17 時の間に、教務係に申請書を提出して下さい。「経営学入門演習」の履修希望者が多い場合には、その履修者は、1 年次第 1 クォーターに開講される「初年次セミナー」の全体講義課題レポートに基づいて選抜します（2(2)①参照）。プログラム参加者は、1 年次第 2 クォーター終了後に最終的に決定し、第 3 クォーター開始までに発表します。

### 4 プログラム修了要件

この教育プログラム履修者は、上記 2 で示したプログラム科目（「経営の理論と実践 1～3」、  
「経営の理論分析 1～3」）をすべて履修し合格する必要があります。ただし、プログラムの途中で不合格になった科目があっても、場合によっては、継続あるいは途中参加できることがあります。

### 5 他の特別教育プログラムとの関係

この教育プログラムは、キャップ制限を越えない限り、KIBER プログラムや会計プロフェッショナル育成プログラムといった経営学部の他の特別教育プログラムとの同時履修を認めています。履修登録に際しては、キャップ制限に注意してください。